



■令和6年度県総体を終えて—総体報告会にて—

各部の皆さん、県総体お疲れ様でした。私も可能な限り各競技の応援に出掛けさせていただきました。各会場では、皆さんのひたむきな姿に出会うことができました。県総体を終えた今、どんな気持ちですか？「やり切った」と思っている人、あるいは怪我や体調不良のため万全の状態です。試合に臨めなかった人もいるかもしれません。県総体を終えた今、次の3つのことを皆さんに問いかけたいと思います。

一つ目は、“今を完全燃焼”できたかどうかということです。県総体壮行式で、私は「今が大事なんだ！」とその一瞬を“完全燃焼”することの重要性を伝えました。皆さんの中には、県総体が終わった今「あの時こうすればよかったな」とか「もっとこうしていれば勝てたかも？」といった思いを抱いている人がいるかもしれません。しかし、今となってはその時に戻ることはできません。だからこそ、その一瞬一瞬が重要なのです。後から後悔しないよう、少し先の未来から逆算して、その時その時の一瞬を大切にしてほしいと思います。県総体が終わった今こんなことを言っても遅いと思うかもしれませんが、この先の人生において同様の機会は数多く存在するはずです。県総体での経験値を、長い人生の次の機会に活かしてほしいと思います。

二つ目は、“競う相手”に勝てたかどうかということです。試合には必ず相手が存在します。その相手に勝てたかどうか？多くの競技においては、相手よりも1点多く得点すれば勝ちとなります。万全の状態でなくても、相手の得点を上回っていれば勝ちです。相手がある以上、それは相対的なものといえます。一方、自分自身という相手に勝てたかどうかという考え方もあります。自分自身が持っている自己ベストを更新できたかどうか？そこには試合相手との戦いという相対的なものではなく、自分自身との戦いという絶対的なものが存在します。今大会、陸上競技の応援に出掛けた際、顧問の先生が「よし！自己ベスト更新だ。」と言って嬉しそうな笑顔を浮かべていた瞬間が忘れられません。勝負には必ず勝ち負けがあります。しかし、それが絶対的なものであるかどうか？そこに価値を見出してほしいと思います。

三つめは、目標に対して努力をしてきたかどうかということです。交響曲『第3番・英雄』『第5番・運命』『第9番・合唱付き(第九)』など数多くの作品で有名なドイツの作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは「努力した者が成功するとは限らない。しかし、成功した者は必ず努力している。」との名言を残しています。「楽聖」といわれるほどの“天才”が、努力することの大切さを語っているところにこの名言の名言たる所以(ゆえん)があります。「努力しても報われるとは限らない」という切ない感情を抱かせた後に、しかし努力することは誰にとっても必要不可欠なものなんだよと言われ、はっと我に返る感じを抱かせます。自己の目標に対して努力をしてきたかどうか？目標に対しての結果ではなく、目標に対して努力を続けてきたかどうか、その過程を検証してみることが大切です。

県総体での様々な経験が、皆さんの次のステージに活かされるよう願っています。

そう「今が大事なんだ！」